



# なつのがくも



本校ホームページ  
携帯・スマホ用サイト  
でもご覧ください。

第126号 (R2. 2. 28)

練馬区立光が丘夏の雲小学校

おこた ゆ  
怠らず 行かば千里の果ても見ん 牛の歩みのよし遅くとも

校長 牧野 光 洋

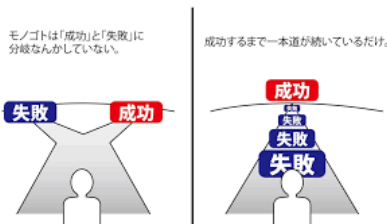
社会情勢が緊張を増してきました。常に緊張感をもって令和二年度を無事に終わりたいと願うばかりです。さて令和元年度最後の学校通信は、一年を締めくくるお話として「<sup>うん</sup>・<sup>どん</sup>・<sup>こん</sup>」を取り上げました。たとえ牛のような、ゆっくりとした足取りでもコツコツと着実に進みさえすれば必ず目的地に到達するというのです。何かを成し遂げようと思ったら、焦らず、弛まず、粘り強く努力しなくてはなりません。飛行機は勿論のこと電車も自動車もなかった時代に長旅は命がけだったに違いありません。時には何年も、いえ一生の大半をかけてしまうこともあったことでしょう。私たちの人生も同じです。雨や増水によってなかなか進めない日もあるでしょう。自分の体調が悪くて思うように歩けない日もあるでしょう。そんな時は「ほんの少しでも前進すれば、やがて着くだろう。昨日よりも少し前進したではないか。」と自分を勇気付けることが大切です。昔から成功するには「<sup>うん</sup>・<sup>どん</sup>・<sup>こん</sup>」の3つが大切だと言われてきました。

第一の「<sup>うん</sup>」は、自分の力ではありませんから一見努力とは無関係なように見えます。しかし悪魔に針で刺される夢を見たことによってミシン針の大発明がなされ、アルキメデスはお風呂のお湯が溢れるのを見てアルキメデスの原理の「浮力」を大発見したと伝えられています。悪夢は誰でも見ますし、お風呂のお湯が溢れるのは日常茶飯事です。しかし、それを見て大発見も大発明もしません。求め、日々の出来事を注意深く観察し、努力していた人だけが手に入れた閃きです。いくら運が巡ってきても、やる気のある者でなければ気付くことはないでしょう。「<sup>うん</sup>」は努力によって手に入るものとも言えます。



第二に「<sup>どん</sup>」。「一を聞いて十を知る」という利口者は大成し

ないと言われます。呑み込みが悪くて、人の何倍も時間が掛かるなどという「鈍」な者が大成するというのです。呑み込みの早い者は、物事に飽きやすく、小手先で物事を片付けようとするからだそうです。今まで知り聞いてきたものと真逆の視点ですね。なんだか勇気が湧いてきます。



第三に「<sup>こん</sup>」。これが一番大切です。粘り強く続けること、めげない

ことが成功の秘訣です。失敗しても、失敗しても、次に成功が待っているかもしれません。できるまでやる人ならば、失敗は逆に大きな成功のための肥やしになります。すべての方々がそれぞれの道を進みます。一步社会に近付き視野が広がります。



この一年間、光が丘夏の雲小学校を支えてくださいました皆様に感謝申し上げます。来年度は創立十周年のお祝いも予定されています。平成から令和への時代も遷りました。「<sup>うん</sup>・<sup>どん</sup>・<sup>こん</sup>」粘り強く、希望をもって次のステップに全職員一同、子供たちの成長を願い、一步一步、コツコツと歩いていきたいと思ひます。